

駅史の広場に浮かぶ まちのペランダ

貴重な歴史資源を大切に継承しながら、
新たに加わる都市建造物を、調和と新鮮さを兼ね備えつつ融合させることで、
次の100年も、まちと住民に活力を与え続けられる力をもった駅風景を創造したいと考えます。
新しい諏訪ノ森駅舎及び駅前広場の具体的な姿として、3つの大きな提案をします。

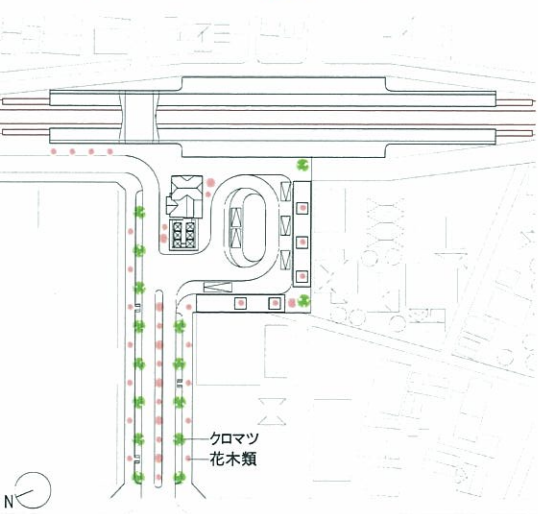
- 1.「まちのペランダ」 ホームを、新たにまちに加わる気持ちの良いスポット ― 見晴らし台として整備します。
- 2.「駅史の広場」 地上レベルは、駅舎内外を問わず全体を連続的な広場ととらえ、一体的に整備します。新旧のイメージが融合するこの広場を、象徴的かつ実用的なまちのセンターとして機能させます。
- 3.「中心軸」の定着 西側駅前線から東側商店街につながる動線を、貴重なまちのストラクチャーとしてとらえ、より明確な軸線として決定づけます。



1.「まちのペランダ」

高架ホームを、まちに加わる新しいファシリティとして積極的に捉え、そのポテンシャルを最大可します。
つまり高さを活かし、外壁で一様に覆い隠さず、まちを見晴らす気持ちのよい居場所・ビューポイントとして、開放的にデザインします。

現代的な軽快さを確保しながら、どこか洋館のペランダの雰囲気にもつながるイメージを目指します。



■配置図 S=1:1000

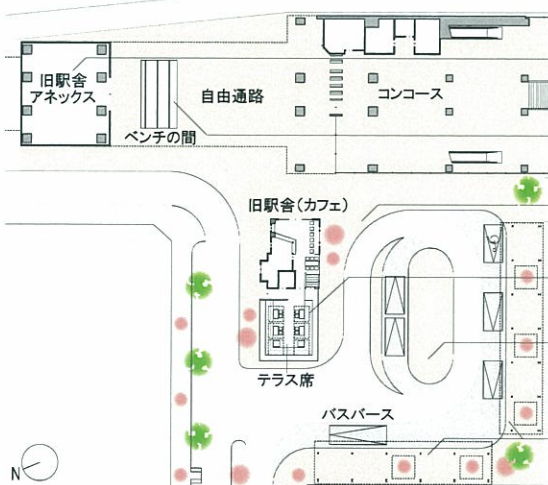
2.「駅史の広場」

自由通路、コンコース、旧駅舎を含む駅前広場 ― つまり地上レベルはすべて、全体を広場と捉えて連続的にデザインします。

旧駅舎を中心に駅前活動・駅前交流の醸成を図る計画とします。

旧駅舎やまちのイメージを強化するステンドグラスのほか、カラーガラス・カラーガラスブロックを各所に用い、移ろう色光を効果的に採り入れた表情豊かな場所とします。

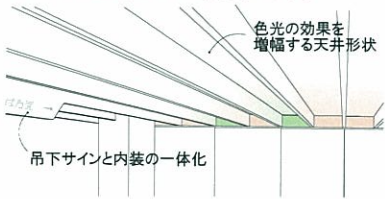
活きた遺産・旧駅舎を抱える「駅史の広場」は、まちのアイデンティティを表現し、かつ、住民が憩い活用する、象徴的で実用的なまちの中心として機能します。



■駅史の広場 平面図 S=1:500

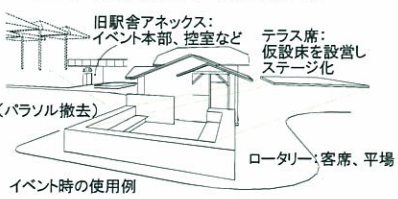
■自由通路とコンコース

- ・外面ランマ部分はステンドグラスまたはカラーガラスとし、朝夕の陽光を印象的な色光として採り入れます。
- ・天井は、下がり壁を一定間隔で設置したりリブ風天井とし、色光の効果を増大させるとともに、吊下サイン類を内装と一体的に計画します。
- ・自由通路に、人だまりのスペースとして部屋のスケールを持つ大きな腰掛「ベンチの間」を設けます。



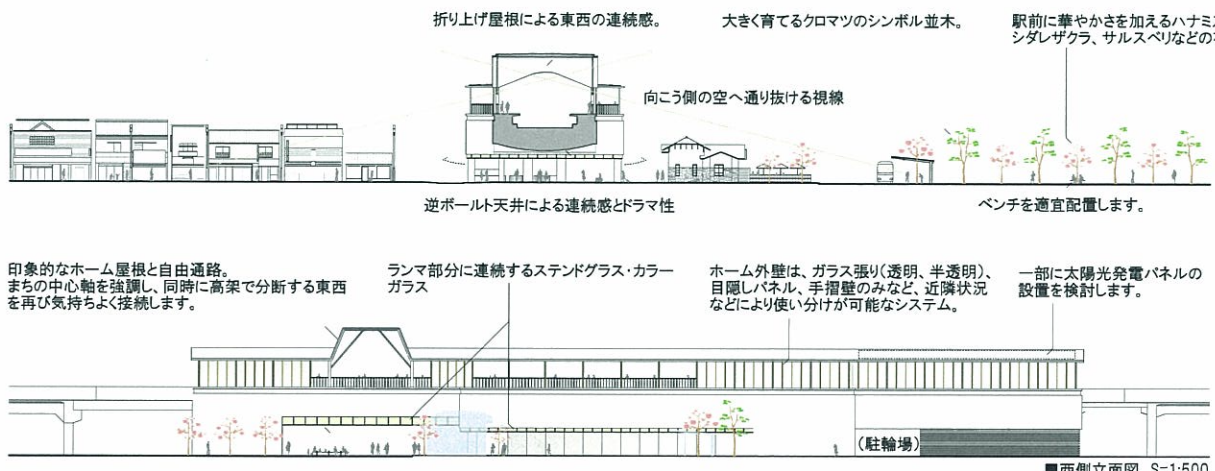
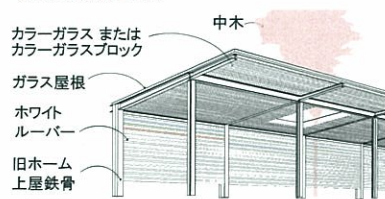
■旧駅舎と旧駅舎アネックス

- ・自由通路北側に多機能スペース「旧駅舎アネックス」を設置します。旧駅舎とアネックスは一体となり、駅前コミュニティに貢献します。スペースが2つあることにより、機能分担・補完が可能となり、多彩な活用が望めます。
- ・旧駅舎はカフェ利用を想定し、必要な改修を検討します。
- ・旧駅舎西側には旧ホームの石積を利用し、イベント用ステージにも転用可能なテラス席を設けます。



■駅前広場

- ・駅前広場は、旧駅舎テラス席をステージとしたイベント広場としての活用も考慮し、整備します。
- ・歩行ゾーンは、広場としての一体的広がりを感じられるよう、自由通路、コンコース同一の床仕上げとします。
- ・各バースには、新駅舎と調和したシェルターを設置します。シェルターのフレームには旧ホームの上屋鉄骨の再利用を検討します。



■西側立面図 S=1:500

3.「中心軸」の強調

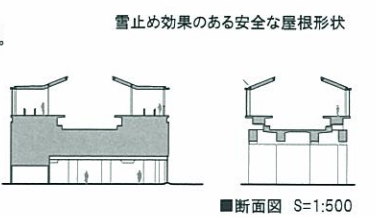
駅をはさむ東西動線を、これまで以上にはっきりとまちの中心軸として位置付け、定着させます。
「まちの中心軸」は、未来の住民に伝えやすいアイデアです。分かりやすい軸は、それがまちの代表的な風景となり、継続的なまちづくりを行う手がかりを提供します。

- ・中心軸上のホーム屋根を折り上げ、軽やかなシンボル性を表現します。どこか洋館のスカイラインを思わせるイメージを目指します。
- ・自由通路は、両端を高くした逆ポルト天井とし、東西が、よりスムーズに、かつドラマチックに連続する印象を与えます。
- ・駅前線の並木は、まちのイメージにつながる黒松をベースとします。次代住民へのギフトとして大きく育てられるよう、植栽体の幅やピッチを大きくとりず。平行して、花木による彩を加え、通りに新しく明るい雰囲気を持ち込みます。

4.柔軟なデザインプロセス

提案は主要部分かつ大方針に限られているため、より細かなことについては、住民、事業者、管理者など、関係する方々との協議に基き、柔軟に決定してゆきます。

- ・旧駅舎を含む駅史の広場の活用方法について、関係する方々と協議し、デザインに反映します。
- ・各部デザインの中でも特にステンドグラス絵柄については、住民の方々の意見やアイデアが盛り込まれることが望ましいと考えます。例えばワークショップなどにより、協働することも考えられます。
- ・予算により、素材・ディテール・数量を柔軟に検討します。例えば、ステンドグラスの数量は注意深く検討し、必要に応じカラーガラスなどに代替します。
- ・効果的な予算配分を目指します。例えばコンコース内装は、天井とにデザイン要素を集中させる他は、機能を満足するシンプルな構成とします。
- ・管理者の意見やノウハウをお伺いし、メンテナンス性を重視した素材選択をします。



■断面図 S=1:500

- 全体概算事業費(税別)
- ・新駅舎関連 必須提案部分 147百万円
- ・新駅舎関連 その他部分 52百万円 (ホーム屋根、高架下提案)
- ・駅前交通広場・駅前線関連 必須提案部分 17百万円
- ・駅前交通広場・駅前線関連 その他部分 38百万円 (再利用部材活用カフェテラス、シェルター、旧駅舎内装)